馬鹿にするなッ！

三百円回答に怒る高島の仲間

高島炭鉱の重点ストオルグとして派遣されていた平島鑑渠部長は十九日再び指導オルグとして高島に出張、二十五日その後の高島労組の闘争状態を次のように報せてきた。

二十三日各地域で三〇〇円の回答の説明を執行部よりなされたところ「馬鹿にしている」という声が一齊に起り、要求貫徹の意気は益々さかんになつています。

不満はいえぬの合言葉

長い闘いの中にはやはりいろいろの不満は何処の組合でも起るが、高島でもやはりカンパ配分や徴収の問題でいろいろあつたが、最後の合言葉は「仕事をしてカンパを行つている炭労の同志がいるのだそれを思えば不満はいえぬ」という声があります。

いま私は主婦会や組合員に対して三池で行つている生活革命運動、家族会議の説明を行つています。みんな非常に関心をもつて主婦会でも検討してみようという声が起きています。

カンパをうけて闘う立場の人も悩みがあるようです。毎日遅刻を行

交流を望む主婦

十九日再び高島に派遣され、風雨にもまれて少々船酔いをしながら無事つきました。

端島（軍艦島）へは、高島からタツタ三十分ぐらいで同く位置ですが、風雨がきびしいので欠航になり、二十数名の人は高島につくられている会社施設に船が出るまで宿泊ということになり、結局二晩三日高島に釘づけになつた状態です。この場合の取扱いは、宿泊料二百円は個人もちで、証明書を持参すれば最近の要求で交通遮断休暇を獲得しています。ちようど三池からみればおもしろいし、不自由な島だと予想されます。

到達闘争に関心

オルグ団は地域における組合員や主婦会の座談会を開いています。主婦会との懇談会を行つてみて、やはり三池で悩んだものがあるようです。

それはまず、まだ主婦会に加入せず、婦人会に加入している者がいること、主婦会の役員になると多忙で主人の理解が乏しいこと、物品の購入取扱いで問題があることなどがあげられ、この点をどのようによその主婦会は解決しているか、地方（デカタ＝地続きという意味）の主婦と交換したいという希望があります。

組合員の間では三池の三種を下部に落すという闘い（到達闘争）について関心をもつおり、その内容についての質問があります。高島でも職場、地域で約一・〇〇〇項目の要求が大衆交渉やその他の方法で行われています。

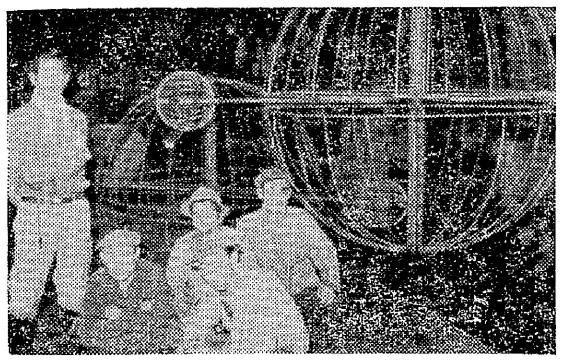
和やかに開幕

荒尾のメーデー前夜祭

大牟田、荒尾地区のトップを切つて、荒地評では去る十九日華やかにメーデー前夜祭を催した。

十九日午後六時より荒尾公会堂にあてられた会場には、定刻前から早くも観衆がつめかけ、プログラムの進むにつれて会場一杯ギツシリと人の波である。

今年は昭沢山の種目が組まれ、出演団体も例年にないほど多かつた舞踊、フォークダンス、合唱、楽団演奏、寸劇、劇となかなか多種目で、まず舞踊の「春雨」を三川支部原方田分会の人たちが演じて幕をあけた。女白虎隊、おてもやん、小作人の娘（劇）、チヤンチキおけさとつぎつぎにプログラムは進み、三川、四山支部の主婦会市職組の婦人部、車商連、自由労組などの人たちがつぎつぎと演じ



人工衛星も登場

メーデー前に完成

メーデーは例年プラカード、仮装で市民に親しまれているが、こんどのメーデーには人工衛星が登場しようとしており、いま三川支部の職場では話題をまいている。

このほど教宣部の注文でこの人工衛星が二ケ製鋼場で出来上つた。直径一米五〇の地球、その周囲を直径約三十糎の衛星がぐるぐる廻る仕組みになつている。

骨組みは全部金属で頑丈なものである。大会後すぐにこれを取壊すのは勿体ないほどで、製作まで四日かかつたと現場の人はいつていた。

製作に携つた人の話によると、衛星に取付けるアンテナも米国式とソ連式があり、その方向やもようなど、あわてて図書館にかけこみ専門書を漁つてその概要をのみこむという苦労もあつたという。

この衛星、二十三日出来上り、早速支部の手に渡されたが、表面のデコレーション如何によつてはこの衛星が死にも生きもしますバイとは現場の人たちの声であつた。メーデー当日にはこの衛星が両会場にさつそうと登場することになつている。

をゴマかして映画を見に行くという人もあるようで、主婦会とともにこの規則に努力しています。

会場は非常に活気にあふれ、和やかな中にも真剣味があふれて労働者の祭典メーデーの前夜祭にふさわしい楽しい一夜であつた。

とくに注目されたのは市民の人たちの参加であつた。これは荒尾市フォークダンス友の会の人たちの出演で示されたが、このほかにも三川真珠会、大島演劇サークルなど劇団の出演もあり、前夜祭をいやが上にも充実させていつた。

世論の力で真実を

菅生事件の坂本被告語る

菅生事件は東大学者の爆破状況鑑定について、爆破は予め内部にしかけられていたとの結論によつて事件の真相はいよいよ明らかとなつた。

去る二十三日組合本部を訪れた同事件の被告の一人坂本久夫氏は、事件の核心とこんごの行方についてつぎのように訴えて協力を要請した。

○……東大の鑑定を科学的なものとして国民が認めるかぎり、私たちの事件に対する真相は明らかです。当夜、私たちは（後藤巡査と二人）駐在所附近で渡辺刑事ほか数名がたむろしているのと会つた。私たちは「こんばんわ、何事ですか？」と挨拶して通りました。その地点から駐在所は目の前です。私たちは駐在所と別の部落の方へ歩きかかつた時に大きな音がして振返つた途端に照明弾が上つた。同時に警官が飛出してきて捕つたわけです。これからみてもいかに計画的に事件を作り上げたかが判るでしょう。

また駐在所の門灯を消したのは小林警官（証人）は私の方だといいました。ところが実地検証したところ私が背が低いため電球まで手が届かないことが判つたのです。

また小林証人とは別に新聞記者は門灯を消したのは一人だ、その人間も警官のようだつたと二回とも判然と証言しているのです。とにかく警官の証言は支離滅裂でお話にならない。

こういうことからもこの事件を通じて、国民は警察官へおかしいという疑問を持つてきました。こういう時に内部爆破のことが明らかになつたのです。これでは警察は逃げ手がない。そこでケチをつけてきた。しかしその根拠は全くありません。証言の内容は科学的でなく、事件に即した実験でないということが判りました。ただビール瓶を椅子の上で破れるか破れないかの実験のみをやつてきた。これは事件の核心には何も触れないのです。

こんど裁判官が勇気を持つて、そして良心的に行うなら私たちは無罪になるのです。そういう風にさせて行くためには国民の世論の力が必要です。裁判を監視することが必要なのです。そうでなかつたら私たちに不利な形に事実を歪曲してくると思います。最後の闘いは国民の力です。とくに組合員の皆様に協力をお願いします。

以上のように述べていた。

なお、五月十二日から十五日にかけて最終弁論が開かれることになつている。

【写真は坂本久夫氏】

「核非武装」を宣言

米・英も実験やめろ

エニウエトク水爆実験阻止・原水爆基地化・核武装反対国民大会は四月十九日午後一時から東京日比谷の野外音楽堂で約七千人の労働者、学生、市民をあつめてひらかれ、日本の核非武装化を宣言した大会は議長に全国基地連山花芳雄氏、総評副議長藤岡三男氏ら五人をえらんだ後、社会党鈴木委員長共産党野坂第一書記らの来賓があいさつし、いずれも岸内閣と米英政府の戦争政策をはげしく攻撃しソ連の核実験停止にならえと訴えた。

ついで報告に立つた安井原水協理事長は「きようは日食で空が暗いにもかかわらずこの会場は明るいそれはソ連の歴史的宣言後初の大衆集会だからである」と前おきし「ソ連の措置を正しくうけとめ、米、英に同調させること、日本政府と国会に核非武装宣言を行わせること、第四回世界大会を成功させること」を当面の運動方向として強調した。

全国基地連あかねガ久保寛光氏の基地反対闘争情勢についての報告と、砂川、新島、新潟、北富士、百里ガ原などの基地代表のあいさつの後「ソ連に同調して水爆実験を中止せよ」との米、英政府への要請、「平和のために一そうの努力を望む」とのソ連政府への要請

「日本の核武装をするな」との日本政府への要請をそれぞれ満場の拍手で決議し、「大会宣言」を採択した。参加者はこの後、「米ソは実験やめろ」「日本の核武装反対」などのプラカードをかかげて防衛庁前を通り、東京駅八重州口までデモをおこなつた。

△大会宣言（要旨）＝日本の国会はすみやかに「核非武装」の決議をおこない、政府は「核非武装」の決意を内外に表明すべきであるわれわれはここにまず本大会の名において日本の核非武装化を宣言する。

『マス●コミと科学』

一賃金インフレー

西南大学助教授　松井安信

鵜呑講座（20）

われわれの住んでいる資本主義の社会には、考えてみれば当りまえのようで、さらに考えてゆくほどに、ちようと待てよ、と首をかしげたくなるような現象が沢山ある。近く一万円札がお目見得するらしいので、これを機会に皆さんに次の算数を解いていただこうと思う。

1万円＝13円14銭

こんな馬鹿らしい数式なんてあつたものでない、といわれるかもしれないが、それが事実この社会の経済現象なのだから不思議である。この式の解けない人には、次の一連の数式はどうであろうか。

5,000円＝8円93銭
1,000円＝5円96銭
500円＝5円88銭
100円＝4円55銭

これは恰好のクイズだと僕が内心ほくそえんでいるうちに、解答者がボツボツ出てきたようである

お札の印刷粗用、これが普通の人の正解である。しかし皆さんにはこれだけで万点をさしあげるわけにはいかない。三〇点か、せいぜい五〇点ぐらい。お札の印刷粗にかぎつてなぜこのような等式がなりたつのか？の問が答えられていないからである。宿題。

次の問題―銀行券は、こんにちでは（正確には昭和六年以降）金と引換えられなくなつているが、その様なだ換停止の前は、はつきり銀行の債務証書であつた。その証拠に「この券引換えに金〇〇円お支払い致します」という文句が銀行券に刷りこんであつた。つまり銀行手形で、この点一般の商業手形や工業手形などと少しも変つたところはない。それなのにわれわれはお金といつてこれを大切にし、それを手に入れるために汗水流して働いたり、そのために一家心中をせねばならぬという悲劇をみるとは、これは一体どういうことであるのか。また企業家がこれを借入れるために銀行で頭を下げその上に利子まで払つているとはこれまた一体どうしたことか。

しかもこんにちこの銀行手形は不渡り手形のようになつているのに、まだまだこれに類した疑問は注意深く、じつくりと考えながらわれわれの周囲をみつめると、つぎからつぎに起つてくる。国債が一〇〇円とか九八円の相場で大手をふつて売買されているが、これはいらまでもなく国家の債務証書であり、社債もまたそうである。これも宿題。

このように日頃当りまえと考えている日常茶飯事の現象に不思議を感じ、なぜそうなのか、と自分の頭で考え直してゆく態度、つまり疑う精神が科学の出発点でありそんな庇のつつぱりにもならんことは、学者のような暇人が象牙の塔にこもつてやることだ、くだらん、めんどくさい、ケセラセラと片付けようとするのが、マス・コミであるといえよう。

現象面をなんでもかでもウ呑にし、めんどう臭いこと、緻密なことから一刻も早く離れ、チン、ジヤラジヤラか西部劇で無我の境地を味わいたいという気持も分らないではない。大の男が、八時間も九時間も自分の生活の一部を売つて、それも分業でコマ切れのように細分された仕事を毎日せねばならないのだから、神経もクタクタに疲れよう。頭脳も単純化しようそこがつけめと、坑内から出て帰途につく道すがら、そして食事中も、耳から目からマス・コミが飛びこんでくる。それも一回でなく何回も手を変え品を変えてやられるのだから堪らない。馬耳東風ならまだよいほうで、マス・コミが知らないうちに自分の考えになるのだから困るのである。しかしそれだけわれわれの暮しはいつまでたつてもよくならない。戦時中の二の舞の危険すらある。

そういうマス・コミの一つに賃金インフレという用語がある。本論に入りかけたところで幕合となつた。つぎの出番までに宿題を解いておいて下さい。

労働時間を短縮

ソ連、鉱山労働は六時間

世界の労働組合が一つの目標としている労働時間短縮は、日本でも昨年あたりより具体的方向にすすんでいるが、ソ連では来る五月から重工業の一連の部門の労働時間を七時間に、地下労働、鉱山労働者の労働時間を六時間に短縮することに決定して注目されている。

ソ連閣僚会議労働賃金国家委員会は最低賃金労働者の賃金を引上げ最高、最低賃金差を少くすることを考慮に入れて、こんご二カ月の間に具体的な提案をソ連共産党中央委と閣僚会議に提出することになつている。

社会主義社会でなければできない決定であるが、これによつて全世界の労働者に与える影響は大きくなり、全世界の労働運動に一つの目標を示すことになろう。なお、ソ連では革命成立いらい一日八時間労働を建前としてきたが、一九五六年からの第六次五カ年計画で七時間労働への移行が計画され、同年三月十日から土曜日と休日の前日について六時間労働に短縮された。

そのため一日七時間、一週四十時間の目標に向つて努力していたがこんどの措置はそれへの一つのステップとなつたものである。

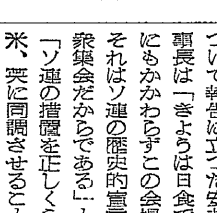
僅かですが

林さん米をカンパ

去る二十二日四山支部に「ほんとに少額で恥かしいくらいですが、組合員の中で生活苦にあえいでいる人でもありましたらどうか差し上げて下さい」と白米二升をもつてこられた組合員があつた。

この人は四山社宅一〇二棟の林光雄さんで、闘けば自分もいままで苦しい生活をつづけてきた。組合から金を借つたりして頑張り、どうにか立上ることができるようになつたが、苦しいことはいまでも忘れられません。それでせめて少しではありますが苦しい生活をしている人に少しでも元気づけることができたら、ということであつた。

林さんは現在四山鉱の坑内運搬である。林さんの奥さんは「立直つたとはいえ今でも家では麦を半々程混ぜて食べています。米二升は四升位に相当しますので苦しいですが、今日食べる米でもないという所があつたらと思いまして……」といわれていた。



【写真は林光雄さん】